

# 相長川水門の愛称決定について ～ゆめ100プロジェクトの実現～

堤 菜彌<sup>1</sup> ・ 弓場 茂和<sup>2</sup>

<sup>1・2</sup> 福知山河川国道事務所 河川管理課 (〒620-0885 京都府福知山市字堀小字今岡2459-14)

2016(平成28)年度「職員の描く近畿のゆめ100プロジェクト」にて発表された「河川内工作物の愛称発表による河川への関心の向上」(以下、「ゆめ100」)を2017(平成29)年度に実施したので、その結果報告を行うものである。河川内工作物の愛称を考えることにより、住民の河川に対する関心を高め、河川管理施設に愛着や親しみを持ってもらうとともに、住民の水防意識向上を図ることを目的としている。愛称を名付けるまでの取組及び愛称をつけた後の河川への関心や水防意識向上の結果について報告を行う。

キーワード 河川管理施設, 愛称, 水防意識向上, ゆめ100プロジェクト

## 1. はじめに

由良川の流域は、山地が約90%、平地が約10%という典型的な山地河川の特徴を持っており、上流部は勾配が急で流れが速いが、中流部の福知山盆地では勾配が緩くなり洪水が溜まりやすく、下流部では勾配は緩やかでかつ狭長な谷底平野となっていることから、中下流部では水害が頻発している(図-1)。近年5ヶ年だけを見ても、2013(平成25)年台風18号、2014(平成26)年8月豪雨、2017(平成29)年台風21号と3度の浸水被害が発生しており、住民一人ひとりの水防災意識向上が重要で、由良川減災対策協議会においても、住民の水害に対する意識を高めるための出前講座の拡大や地域住民参加型の避難訓練等の実施等のソフト対策にも取り組んでいる。



図-1 由良川流域図

当「ゆめ100」は上記要旨にも記載のとおり、河川内の工作物に愛称をつけることにより地元住民の河川に対する関心を高めることを目的に実施した。愛称をつけることによって単なる工作物ではなく、地元住民にとって愛着のある施設にし、さらには河川管理施設に関心を高めることにより水防意識の向上してもらおうという取組である。

今回「ゆめ100」を実施するにあたり、対象河川内工作物として2017(平成29)年9月に完成した相長川水門(図-2)を選定した。

この相長川水門がある佐賀地区も2013(平成25)年の台風18号等、度重なる水害を受けた地域であること、また、相長川水門は、由良川で進めている河川改修事業(緊急治水対策)で整備された水門であり、ゲートが16.2m×8.9m 1門のローラーゲート形式で事務所管内で最大規模の河川管理施設であり、外見のインパクトも大きく、完成したタイミングが愛称を名づけるのに最適であったため、相長川水門の愛称を募集することとした。



図-2 相長川水門 写真

まずは関係機関と実施に向けて調整を行い、愛称募集、選定、発表という順に進めていった。選ばれた愛称は、いつでも住民の目につくように水門の門柱に縦6.0m×横1.2mの大きさの看板にし、門柱に設置した。以下において、半年間の課程及びまとめについて述べる。

## 2. 実施過程

### (1) 愛称募集 (2017(平成29)年10月4日～12日)

相長川水門の愛称を公募するにあたり、地元の福知山市立佐賀小学校の全校児童27名にご協力いただいた。

相長川水門によって堤内地の洪水被害を抑える地域の子供からお年寄りまで河川への愛着や親しみを持ってもらえるよう、子供たちの自由な発想を生かすために地元の小学校に依頼した。

愛称募集用紙には児童たちにも愛称を考案してもらいやすくするために、水門の働きについて分かりやすく説明した文章を添えた(図-3)。

募集期間は約1週間とし、児童たちには、愛称とその愛称とした理由を募集用紙に記入してもらった。

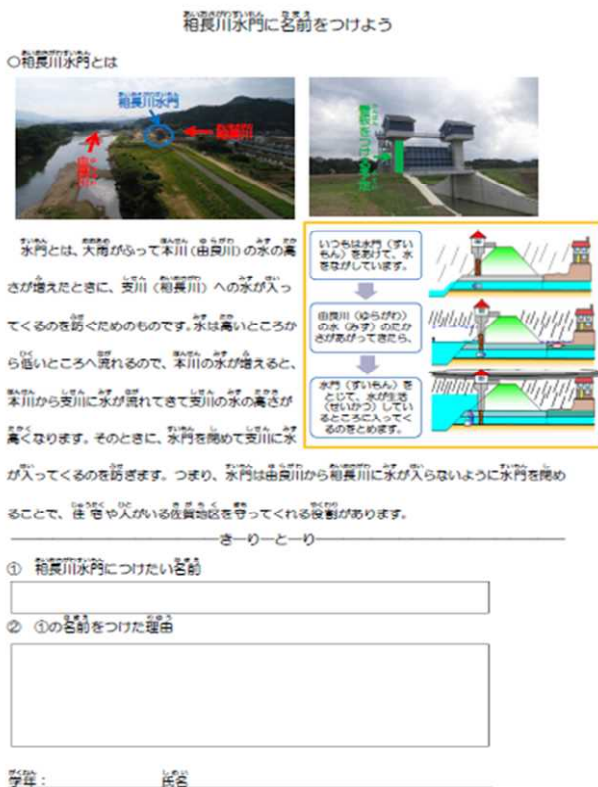


図-3 愛称募集資料

### (2) 愛称選定 (2018(平成30)年 1月26日)

佐賀小学校のご協力のもと集まった27個の案から、愛称を選定するにあたり、選定委員会を結成した。委員会は、幅広い視野から選定を行うため福知山公立大学 地

域経営学部の谷口知弘教授、佐賀小学校の校長先生、京都府中丹西土木事務所長、福知山市土木建設部長、福知山河川国道事務所長の5名で構成した。谷口教授には、学識的な観点から判断を行ってもらう役割を担ってもらっていたため委員長に任命させていただいた。事務局は当事務所河川管理課に配置し、選定委員会開催に必要な事務を担当した。

「ゆめ100」の目的にあった愛称を選定していただくため【地元住民の水防意識向上が図られ、かつ子供からお年寄りまで由良川とその河川管理施設(相長川水門)に愛着や親しみを持ってもらえる愛称】をコンセプトとして選定していただいた。また、応募された愛称はどの作品も各児童の思いが込められており、1つのみを表彰するのは惜しかったため愛称(最優秀賞)の他に、優秀賞2名、佳作3名を選定することとした。

選定委員会では、水門が水害から守る地区名を入れることで地元の方に愛着を持ってもらえるのではないかという思いから「佐賀」という地名が入ったもの、水門は、外水(由良川からの洪水)を堤内地(住宅地)に入れないように逆流防止のために設けられるものであり、「安心・安全」を感じられるものが良いのでは、という2つを軸に候補が絞られた。佐賀地区は、これまでの出水で幾度となく浸水しているため、これからは水害から佐賀地区を守ってくれることの願いが込められた「佐賀の夢水門」が相長川水門の愛称(最優秀賞)として選定された。ちなみにこの愛称をつけた理由は「水害がなくなって、安全な暮らしができるようになってほしいという地域の人たちの願いで作られた水門なので、佐賀の夢という言葉をつけました」とされている。

優秀賞は、「佐賀の夢水門」と類似していた「佐賀命の水門」と市民として受け入れやすそうなかわいらしい感じがあるものがよいとして「さがまもるくん」が選定された。佳作には「ふるさと佐賀水門」、「佐賀がんばる門」、「佐賀ゆうあい水門」が選定された。「ふるさと佐賀水門」は佐賀を水害から守るという意味合いが込められているところ、「佐賀がんばる門」は水門の門と話し口調の「もん」を掛け合わせている工夫が評価された。「佐賀ゆうあい水門」については、由良川の「由(ゆう)」と相長川の「相(あい)」を合わせた言葉と「友愛」を掛け合わせ、工夫が凝らされていたことが評価された。

### (3) 愛称発表 (2018(平成30)年 3月11日)

選定委員会で活発に議論され選定された愛称は、相長川水門現地で地元の方々に参加いただいた相長川水門見学会にて発表した。当日は、愛称発表という機会を活用して、地元住民の方に河川管理施設について理解を深めてもらい水防意識の向上につなげるため、愛称発表に加えて、水門の建屋見学、水門工事の説明及び由良川の

事業、主に相長川水門を含む緊急治水対策についてパネルを用いて説明を行った。水門の建屋内では実際に操作盤を用いてゲートの動かし方を説明していただき、水門の役割・機能について参加者に理解を深めていただいた。工事説明では、「相長川水門ができるまで」というテーマで工事の流れについて説明を行い、大きな工事が動いていたことを知っていただいた（図-4）。



図-4 相長川水門 現場説明会

メインの愛称発表は、水門の門柱に取り付けられた看板の除幕をもってお披露目し、受賞された児童6名で除幕式を行った（図-5）。

ちなみに当日は、水門の工事を担当していただいた工事業者の方々、愛称を応募して下さった佐賀小学校の児童ならびに保護者、地元の水防団（消防団）、一般市民の方々など合わせて約100名が見学会に参加された。



図-5 愛称発表（除幕式）

### 3. 愛称の効果

#### (1) アンケート実施

愛称がつけられたことにより、目的がどれくらい達成されているかを確認するため、現場見学会にて参加いただいた方々にアンケート調査を行った。

質問事項は以下の3つである。

- I 愛称がついたことによって、水門に興味・感心がわきましたか。
- II 愛称がついたことによって、河川（由良川・相長川）に興味・感心がわきましたか。
- III 愛称がついたことによって、愛称がつく前より河川（由良川・相長川）へ親しみや愛着がわきましたか。
- IV 愛称がついたことによって、水防に対する意識が向上すると思いますか。

上記の質問に対して、

- ①とてもそう思う
- ②そう思う
- ③あまりそう思わない
- ④全く思わない

の4択形式で回答していただいた。

#### (2) アンケート結果と考察

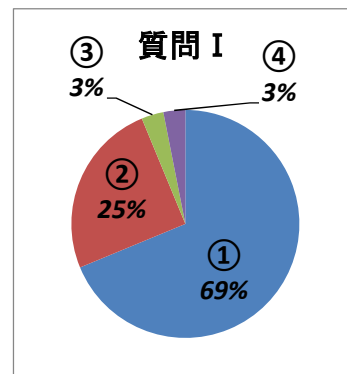
回答結果は以下のとおりである。

I	① 2	② 2	③ 8	④ 1	④ 1
II	① 1	② 7	③ 1	④ 3	④ 1
III	① 1	② 9	③ 1	④ 0	④ 0
IV	① 2	② 1	③ 7	④ 3	④ 0

質問Iと質問IIの結果を見ると、愛称がついたことによって、概ねの方々が、相長川水門や由良川・相長川に興味・感心を示されている。

また、質問IIIの結果からも、愛称があることで以前と比べて、河川に対して親しみや愛着を持っていた。

さらに、質問IVの回答にあるように、水防意識が向上したと回答いただいている（図-6）。



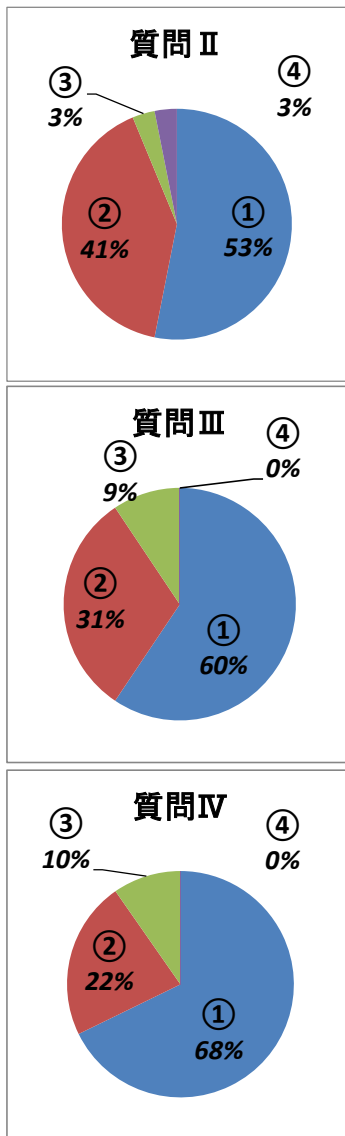


図-6 アンケート結果

#### 4. 今後について

##### (1) 今後の課題

実際に、愛称をつけ、看板作成のあと、門柱に設置をして地元住民の方々に広く知らしめるようにしているが、看板を門柱に設置しているだけでは、相長川水門に「佐賀の夢水門」という愛称がついていることについて、なかなか知名度は上昇しにくいと考えられる。様々な関係機関の協力のもと名付けられた愛称を活用し、水防意識の向上に貢献するためにも、地元小学校の防災教育に利用していただくなど、継続的に使用してもらえるようなアピールが必要と思われる。また、愛称に込められた想いを忘れないよう後世に伝える取り組みも必要と考える。

##### (2) 今後に向けて

アンケート結果から、「愛称」をつけたことにより、水門及び河川に対して地元の方々に興味・関心を持っていただくことができた。また、愛称発表をきっかけに現地説明会を開催し、河川管理施設について説明及び見学会を行い、地元住民に対して広く開放したことにより、地元の方の水防意識向上に貢献できたと思われる。引続き、出前講座等を通じて、佐賀地区とのかかわりを深められるようにと考えており、6月末に佐賀小学校を対象に相長川水門の現場見学・由良川に関する説明を行う予定である。

現在、由良川では緊急治水対策等の工事の進捗が図られており、今後も堤防・樋門に加え、排水機場の増強や防災ステーションが整備される予定である。河川管理施設は、出水時に活躍するものであり、日常では稼働することなくあまり目立つ存在ではないことが多いが、地元の方々の水防意識向上のためにも積極的にアピールする機会を設定すると良いと思った。実際、3月11日に行った愛称発表兼現場見学会には、予想を大幅に超える方々にご参加いただき、実際に水害に遭われている経験がある方が多いからか、相長川水門の完成で外水被害の軽減が図られるものの内水対策に係る質問があるなど、水防について興味・関心をお持ちの方は多いと感じ、行政サービスの需要があると感じた。

なお、現在は中流域の相長川水門にしか愛称が名付けられていないが、上流域・下流域の河川管理施設についても、愛称を選定し、由良川のランドマーク的存在を増加させ、沿川全体での取組を行ってみたいのではないかなと思う。上流・中流・下流、それぞれの地点で愛称のついた河川管理施設があることで、子ども世代には由良川で行われている水防対策について周知をしやすくなり、「水防災」に興味を持っていただけるのではないかなと考える。

さらに、河川及び河川管理施設への親しみを増やしてもらおうという点においても、地元住民の方々に対してより一層河川及び河川管理施設への親しみを高めていただけるようなアニバーサリープロジェクト等のイベントを河川管理者として行っていければ良いと思う。その結果として、地元住民の方々に河川への関心を高め、住民一人ひとりの防災意識向上につながることに期待をしたい。

謝辞：愛称の公募にご協力いただいた福知山市立佐賀小学校の皆様、愛称選定委員会の皆様、愛称発表兼現場見学会の開催にご協力いただいた皆様、全ての方々に深く御礼申し上げます。